

研究 と 修養

動画で
視聴できます

校内研修で、何をしていますか？

研修とは「研究」と「修養」の2つから成る言葉です。

情報セキュリティや人権感覚など、教員に必要なルールや資質について確認し、**人格を高めるのが修養**です。教員として子どもの前に立つ**資格を保つために必要な時間**です。

では、研究とは？

研究は、**工夫を考える時間**です。

授業づくりの工夫、子どもへの接し方の工夫などを考えます。

つまり教師として子どもを**幸せにする準備**です。

レストランに例えると「授業づくり」の工夫は、美味しさの追究

学級経営や生徒指導の方法など「子どもへの接し方」の工夫は、接客技術の向上。どちらも大事です。

レストランと異なり、子どもは店（学校）を選んだり、メニュー（授業）を選んだりできません。

接客が下手でも、味がまいちでも客は入るのですが、

美味しい料理を届けて子どもを笑顔にしたい、ワクワクさせたいと願う先生は多いですよ。

子どもへの接し方の工夫の特徴

「子どもへの接し方」に不備があればトラブルとして顕在化するため、どの学校でも教師集団で問題意識を共有してチームで対処し、組織的な改善へとつなげています。効果があつた取り組みは自然と学校に蓄積されます。

授業づくりの工夫の特徴

一方、「授業づくり」の工夫不足は顕在化しづらいという特徴があります。それなりの味の料理でも不満の音が聞こえないからです。原因は、本人しか味見を行わないし、教師も子どもも他の店の味を知らないため、それなりに満足してしまうことにあります。だから「授業づくり」の工夫を組織的に改善していくには、意識的な取り組みが必要になります。

協力

忙しい日々の中で、いつも手間ひまを惜しまず調理するのは難しいでしょう。時には、時短レシピや作り置きも必要です。だからといって、忙しさは味の追究を諦める理由にはなりません。

一人でレシピを再考したり、新たな調理法を考えたりするのは大変ですが、人に味見をしてもらったり、人の調理法や工夫を見たり、教え合ったりした方が、美味しい料理に早く近づけると思います。また、自分の授業だけが向上するより、どの先生の授業も向上した方が、子どもたちを幸せにできます。だから、個人よりチーム。そのための校内研究です。先生たちが協力して工夫を考え、その工夫で子どもたちを幸せにする。それが校内研究です。

学校全体の子どもの笑顔を増やしたい…、もっと子どもを伸ばしたい…。 **それなら、研究だ。**

⚠️ 注意

「授業づくり」と「子どもへの接し方」の工夫はどちらも大事。両輪です。ただ「授業づくり」の工夫の方が共有されにくいいため、校内研究として意識的・計画的な取り組みが必要です。もちろんルールや資質の修養も必要。工夫が両輪なら、修養はハンドル。校内研修では「研究」も「修養」も行うことが大切です。

☑️ Check

- ❑ 校内研修では、研究と修養のどちらも計画的に取り組んでいる。
- ❑ 職員室内で「研究」は子どものためのものだと認識されている。
- ❑ 個人ではなく、協力して研究した方がよい理由を職員間で共有できている。